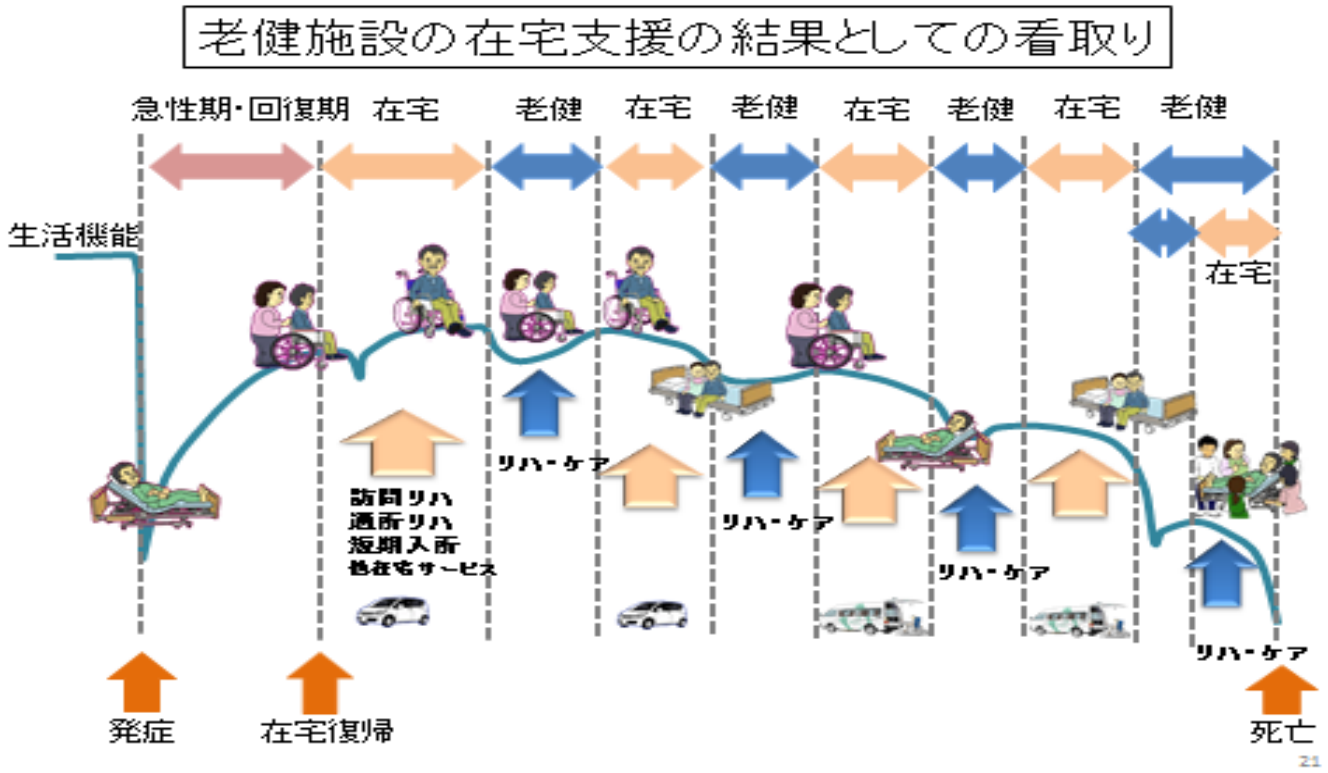
平成２６年９月１日朝礼
施設長　桑原英眞

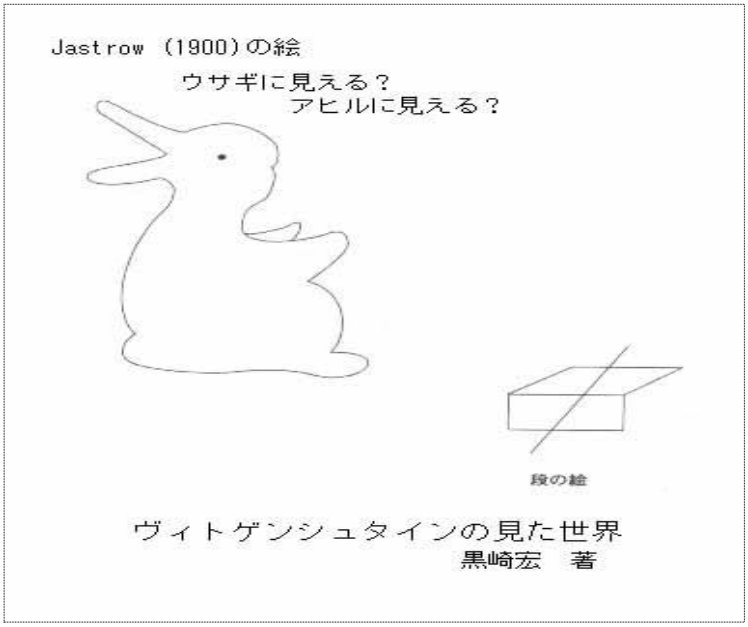
私達の使命である「老健の介護」のイメージの共有について

スタッフ全員が同じイメージを共有すればその力は何倍にも強くなります。前々月も申し上げましたが、老健一羊館の入所についての使命は介護施設として、

１，居宅療養できない方への施設療養の提供、
２，居宅療養できる方へのレスパイトケアの提供、
３，終末期の看取り対応の場の提供、　　この３つです。

言い方を換えれば、　自立支援マインドを前提にした「居宅療養を意識した療養支援」であり、「安定期の医療の提供」＋「広義の生活リハビリ＝老健の介護」　の提供です。　　［居宅療養支援とは：　以下の図は厚労省第 105 回社会保障審議会介護給付費部分科会(2014.8 月)で全老健会長が国に示した老健の役割のイメージです。e-Roken FAX news—fax news　H26.8.8.］





オーストリア出身の哲学者ヴィトゲンシュタインは右図に示すように、同じ言葉・同じ事実を見ても聞いても、誰一人として同じイメージは持ち得ない、といいます。難しく考えるとこのようになりますが、平たく言えば、互いに解り合えたという幻想を共有できれば充分、ということです。

――　解り合うことの根本命題　―――